

虚子記念文学館投句特選句・令和四年七月

稲畑廣太郎 選

館の庭晩夏の風を聴く桂

兵庫 清瀬 環

椿子の三回忌来し二重虹

京都 西村やすし

川音の暮るる芦屋や夏深し

兵庫 玉手のり子

秋近し叶はぬ旅のひとつあり

神奈川 進藤剛至

蟬しぐれ母の小言と友の声

神奈川 平野孤舟

苔庭に日の斑の揺れて夏館

兵庫 宮本露子

師の庭の明るさに汗引きにけり

東京 荒川ともゑ

露涼し三文得をせし気分

兵庫 近藤六健

白日を刻み散らして青嵐

神奈川 金子三奈乃

祇園会や稚児人形のうすき笑み

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和四年七月

心ある人に拾はれ落し文	三重	松村咲子	推敲の扇の風の忙しなく	大阪	多田羅紀子
小判草金に無縁の軽き音	大阪	山下幸典	泣きさけびつつ兄追へる夏帽子	兵庫	中井陽子
合歓咲くをあるかなしやの風に乗る	大阪	田邊育子	雲の峰育ちつつあり六甲山	大阪	林 曜子
太陽のごとく咲きゐる凌霄花	石川	辰巳昌彦	いくたびもうたた寝をして暑に耐へて	京都	山崎貴子
合歓の花目覚めさせたる今朝の雨	三重	永井二紗子	単線の電車を浮かべ青田波	兵庫	小杉伸一路
虚子館の実梅一つにある重み	兵庫	内田泰代	重たげにコイン落ちゆく晩夏かな	兵庫	岸川佐江
十薬の匂ひに湿りありにけり	兵庫	黒田千賀子	六甲の静寂を灯す黄菅かな	兵庫	辻 桂湖
細腕で夢を叶へし家涼し	兵庫	森岡喜恵子	先生の庭の勢ひや夏深し	兵庫	藤井啓子
螢火の瞬き仄と草の陰	奈良	河村久美子	風薫る小路曲りて曲りても	石川	辰巳葉流
快適に松の片陰辿り句座	石川	村上秀吾	フィアンセを日傘の母の遠く見て	兵庫	永沢達明
虚子机汀子像撫で青田風	岡山	小幡恒雄	真夜の事月下美人の朝かな	兵庫	辻田あづき
大木となり館を撫ぶ合歓の花	奈良	山口廣世	ラムネ玉カラコロカラと音清か	兵庫	深尾真理子
通学路懐かしさあり青田道	大阪	八木 徹	風紋を崩す砂丘の波晩夏	鳥取	前田 千
汀子邸表札自筆露涼し	兵庫	柄川武子	ナイターがそのまま電車乗ってくる	奈良	好川忠延
ぶち切れの電話暑さのせめかしら	兵庫	小柴智子	見つけてよ泰山木の花の声	兵庫	岩水ひとみ
実梅落つ師の亡き庭を染む如く	大阪	杉山千恵子	忘れたきことも幾つか晩夏かな	兵庫	高橋純子
梅雨明や一朵の雲もなかりけり	兵庫	高野さち	深窓にショパンの調べ夏館	兵庫	池田雅かず
なほ深む追慕の心半夏生	兵庫	山之口倫子	風蘭を育て風雅を楽しめり	大阪	河辺さち子
相槌は上の空なり氷菓舐む	兵庫	上岡あきら	夏座敷水平線に足伸ばす	京都	前 悦子
暑いとは言はずにぬます暑いから	石川	白根寿子	夏座敷には落ち着きの暗さあり	兵庫	池田文子
汀子邸軒端に揺るる合歓の花	兵庫	川村ひろみ	記念樹を仰ぎ見て入る夏館	大阪	須知香代子
夏服の水玉模様弾けさう	兵庫	吉村玲子	大暑なれど木々の木漏日こちよく	兵庫	細田清子
この奥は生活空間夏暖簾	大阪	立入宮子	蟬しぐれ邸の淋しさ募らせて	兵庫	英賀美千代
薬上げて泰山木は空の巨花	岡山	石井宏幸	山峡の鳶追ひかける風涼し	京都	杉森大介
喜雨ありて水音戻る芦屋川	鳥取	棕 則子	梅雨晴れや山の草花かざる宿	奈良	堀ノ内和夫
喜雨を得て俳磚の色取り戻す	鳥取	棕 誠一郎	蟬時雨やんで炊事の始まらん	大阪	厨子陽子
袖無しは夏服過去に追ひやりぬ	兵庫	槌橋眞美	偲び会へる心を寄せて露涼し	兵庫	平田 恵
あるがまま憂ひも少し夏館	兵庫	奥田好子	滝音の辿りて淵は碧かな	兵庫	福田光博
	兵庫		秋光や軒下耀く日に増して	三重	水越晴子

夕立や生花の匂ふ無人駅	兵庫	高市敦之
三瓶まで行きたし句碑と松虫草	兵庫	岩鼻絹子
在さぬ師の邸内を舞ふ夏の蝶	新潟	安原 葉
まなじりの著き朱のいろ銚の稚児	兵庫	武田優子
かざす手に浄土のひかり蓮の花	兵庫	伊集院秀樹
沈みゆく赤の切り絵の夏の浜	兵庫	足立朱麻
気力では持たぬ五体や大暑の日	大阪	石橋玲子
よく茂る庭水音へ日の洩れ来	兵庫	二瓶美奈子
修験者の道を抜ければ滝広し	兵庫	太平楽太郎
蟬の声鎮める山の高さかな	兵庫	塚本武州
虹立つや想ひを馳する虚子愛子	石川	伊東弥太郎
霊場の泉こんこん木木の影	神奈川	小堀公美子
夏草や現役退きて夢静か	東京	櫻庭 寛
パイプオルガン鳴り続くごと蟬時雨	愛知	小野 薫
白南風の運ぶ香りの波止場かな	兵庫	岡本泰志
顔寄せて異国の香り蓮の花	神奈川	小林 心
夏仕様銀糸の光る飾り櫛	滋賀	近江堇花
俳磚に主亡き音造り滝	高知	和田和子
尋ね来て海山涼し師の館	滋賀	関根ひろ
蟬しぐれ包み込みたる親子句碑	兵庫	田村恵津子
位牌ひとつ増えし仏壇夏座敷	和歌山	中島紀生
透きとほり水よりかるき海月かな	埼玉	土井洋子
マウンドにボールを置いて夏果てる	兵庫	阿曾宏之
朝顔の軒よりほいと顔を出し	東京	宮村土々